

## 神戸高等学校

## ともことサマーキャンプ

作：畑澤 聖悟

## ◇概要◇

「いじめなんかないんだ。いやもしあったとしても、ウチの子達は関係ないんだ。認めちゃダメなんだよ。」

この劇では、生徒、親、教師という全く立場の違う人間が、「校内で起きたいじめ」について向き合っていきます。もし自分が誰かをいじめたら、もし自分の子どもが誰かをいじめていたら、もし自分の担任するクラスでいじめが起こったら…。みなさんは、どうしますか。それぞれの立場に立ってご覧いただければと思います。

## ◇メッセージカードより◇

・キャスト全員の演技力の高さに驚きました。親御さんと子供さんの役の切り替えが素晴らしくてびっくりして圧倒されました。会話もナチュラルで担任の先生が本当に中年男性にしか見えなかったです。女子高生のいじめはとてもえげつないなと思いました。それに加え親同士もなかなかドロドロしてるんだなと思いました。本当に怖かったです。

・題名からは考えられないほどとても考えさせられるような話でした。一人二役演じていて、その演技分けにも工夫がみられてとても面白かったです。最後までとても後味が悪い終わり方だったんですが、そのおかげで深く深く私の心にしみこむような劇になっていました。何と言っても演技が素晴らしくて本当に本当に緊迫してつらい雰囲気でした。途中でリスカしたはずの女の子がリストバンドをして傷を隠しているのがわかって、作りこまれているなと思いました。とても考えさせる素晴らしい話でした。

・私が一番印象的だったのは先生三人の方の衣装、メイクです。校長先生のスーツはパンツで眼鏡、ま

とめ髪で威厳ある感じでした。そして担任の先生の新任感(若い感じ)も伝わってきました。男の先生は白髪にするわけではなく、歳がある程度高いことがわかってよかったです。

## ◇楽屋インタビュー◇

## Q1. 上演を終えての感想は？

A. 中部大会に来てうれしかったですし、裏方やキャストの練習、準備の成果が十分に発揮でき、ミスなくできてよかったです。

## Q2. 役作りで苦労したところは？

A. 子供から親へ、親から子供への切り替わりと緊迫感を出すための演技が難しかったです。あと、先生や親の話し方、しぐさを再現するのに苦労しました。

## Q3. 子供と親の役を兼ねたのはなぜですか？

A. いじめる子供と、自分の子供を守ろうする親の心情を表すためです。

## Q4. 場面転換で工夫した点はなんですか？

A. S S を使って紗幕を青く染めて不気味な雰囲気を出した点です。



【速報担当】 (池田 愛祐佳)

※ 神戸高等学校のみなさん お疲れ様でした！！